

## 特集：プラネタリウム 100 周年 (1)

巻頭言	プラネタリウム 100 周年にむけて	毛利勝廣	152
	プラネタリウムの発明と日本での始まり	井上毅	154
	日本最初のプラネタリウムとその活動	嘉数次人	164

## シリーズ：天文学者たちの昭和

佐藤文隆氏ロングインタビュー

第 1 回：少年時代～高校時代	高橋慶太郎	171
-----------------	-------	-----

## シリーズ：アカデミアの外を知る

第 2 回：科学技術の発展を支えるお仕事	山下真依	184
----------------------	------	-----

## シリーズ：海外の研究室から

第 1 回 チューリッヒの研究室から

Institute for Computational Science, University of Zurich, Switzerland

柴田翔	190
-----	-----

追悼	星間分子研究のパイオニア齋藤修二先生を悼む	大石雅寿・山本智	192
----	-----------------------	----------	-----

月報だより			194
-------	--	--	-----

## 【表紙画像説明】

丸い半球ドームの中央に配置された投影機が星を投影する「光学式プラネタリウム」の第 1 号機がドイツで試験公開されたのは今から 100 年前の 1923 年 10 月のことである。それ以来、プラネタリウムは大きな発展を遂げた。プラネタリウム施設は日本国内だけでも 350 余りが稼働し、多くの人が足を運んでいる。システムはデジタル化にも対応し、表現や運用の自由度は飛躍的に増した。もちろん、宇宙に関する最新の映像も扱う事ができる。本特集では、プラネタリウムが歩んできた道と最前線の様子、そして天文学や社会をつなぐ新しい活動を紹介する。

photo: German Museum, Munich

## 【今月の表紙デザイン】

「天王星」

海の水が暖かくなると、鉱石が十分にエネルギーを蓄えて複雑な機械を動かせるようになる。「うさぎ」たちは探査機のデータを基に星の模型を作るようだ。

新しく発見した星は、この時期の空と似た色をしている。